



syslogの管理 SANtricity software

NetApp
August 22, 2025

目次

syslogの管理	1
監査ログアクティビティの表示	1
監査ログポリシーの定義	3
監査ログからのイベントの削除	4
監査ログ用のsyslogサーバの設定	5
監査ログレコードのsyslogサーバ設定の編集	6

syslogの管理

監査ログアクティビティの表示

Security Admin権限を持つユーザは、監査ログを表示することで、ユーザ操作、認証エラー、無効なログイン試行、およびユーザセッションの期間を監視できます。

開始する前に

Security Adminの権限を含むユーザプロファイルでログインする必要があります。そうしないと、アクセス管理機能は表示されません。




手順

1. メニューを選択します。Settings [Access Management]。
2. [監査ログ]タブを選択します。

監査ログアクティビティが表形式で表示され、次の列の情報が表示されます。

- 日付/時刻--ストレージアレイがイベントを検出した日時（GMT）のタイムスタンプ
 - ユーザー名--イベントに関連付けられたユーザー名。ストレージアレイに対する認証されていない操作については、ユーザ名として「N/A」と表示されます。認証されていないアクションは、内部プロキシまたはその他のメカニズムによってトリガーされる可能性があります。
 - ステータスコード--操作のHTTPステータスコード(200、400など)およびイベントに関連する説明テキスト。
 - **URL**アクセス--完全なURL (ホストを含む)とクエリ文字列。
 - クライアント**IP**アドレス--イベントに関連付けられたクライアントのIPアドレス。
 - **Source**--イベントに関連付けられたロギングソース。System Manager、CLI、Webサービス、またはサポートシェルがあります。
 - *概要*--イベントに関する追加情報（該当する場合）。
3. イベントを表示および管理するには、[Audit Log]ページの選択項目を使用します。

選択の詳細

選択	製品説明
イベントを表示する期間を選択...	表示されるイベントを日付範囲（過去24時間、過去7日間、過去30日間、またはカスタムの日付範囲）で制限します。
フィルタ	表示されるイベントをフィールドに入力した文字で限定します。単語を完全に一致させるには引用符（"）を使用します。1つ以上の単語を返すにはと入力します。`OR`単語を省略するにはダッシュ（--）を入力します。
更新する	最新のイベントにページを更新するには、「更新」を選択します。
設定の表示/編集	[表示/設定の編集]を選択すると、ログに記録するフルログポリシーとアクションのレベルを指定できるダイアログボックスが開きます。
イベントの削除	「削除」を選択すると、ページから古いイベントを削除できるダイアログボックスが開きます。
列の表示/非表示	<p>[列の表示/非表示（Show/Hide * Column）]アイコンをクリックして、テーブルに表示する追加の列を選択します。追加の列は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • メソッド-- HTTPメソッド(POST、GET、削除など)。 • CLIコマンド実行-- Secure CLI要求に対して実行されるCLIコマンド(文法)。 • CLI戻りステータス-- CLIステータスコードまたはクライアントからの入力ファイルの要求。 • *SYMBOL手順*--実行されたSYMBOL手順。 • *SSH Event Type*-- Secure Shell (SSH)イベントのタイプ(ログイン、ログアウト、login_failなど) • *SSHセッションPID*-- SSHセッションのプロセスID番号。 • SSHセッション期間--ユーザーがログインした秒数 • 認証タイプ--ローカルユーザー、LDAP、SAML、およびアクセストークンを含むことができます。 • *認証ID*--認証されたセッションのID。
列フィルタの切り替え	[切り替え]アイコンをクリックする  と、各列のフィルタリングフィールドが開きます。表示されるイベントを制限するには、列フィールドに文字を入力します。フィルタリングフィールドを閉じるには、アイコンをもう一度クリックします。
変更を元に戻す	[元に戻す（Undo）]アイコンをクリックし  て、テーブルをデフォルトの構成に戻します。

選択	製品説明
エクスポート	[Export]をクリックして、テーブルデータをカンマ区切り値（CSV）ファイルに保存します。

監査ログポリシーの定義

上書きポリシーや監査ログに記録するイベントのタイプを変更することができます。

開始する前に

Security Adminの権限を含むユーザプロフィールでログインする必要があります。そうしないと、アクセス管理機能は表示されません。

タスクの内容


このタスクでは、古いイベントを上書きするポリシーやイベントタイプを記録するポリシーなど、監査ログ設定を変更する方法について説明します。

手順

1. メニューを選択します。Settings [Access Management]。
2. [監査ログ]タブを選択します。
3. 「表示/設定の編集」を選択します。

[監査ログの設定]ダイアログボックスが開きます。

4. 上書きポリシーや記録するイベントのタイプを変更します。

設定	製品説明
上書きポリシー	<p>最大容量に達したときに古いイベントを上書きするポリシーを決定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 監査ログがいっぱいになったらイベントを古いものから上書きする-監査ログが50、000レコードに達したときに古いイベントを上書きします。 • 監査ログのイベントを手動で削除する必要があります-イベントが自動的に削除されないように指定します。設定した割合に達した場合、しきい値の警告が表示されます。イベントは手動で削除する必要があります。 <div>  <p>上書きポリシーを無効にした場合、監査ログのエントリが上限に達すると、Security Adminの権限がないユーザによるSystem Managerへのアクセスは拒否されます。Security Adminの権限がないユーザにシステムアクセスをリストアするには、Security Adminロールに割り当てられたユーザが古いイベントレコードを削除する必要があります。</p> </div> <div>  <p>上書きポリシーは、監査ログをsyslogサーバにアーカイブするように設定されている場合は適用されません。</p> </div>
ログに記録するアクションのレベル	<p>ログに記録するイベントのタイプを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 変更イベントのみを記録する--ユーザーの操作によってシステムに変更が発生するイベントのみを記録します • すべての変更イベントと読み取り専用イベントを記録する--情報の読み取りまたはダウンロードを伴うユーザー操作を含むすべてのイベントを記録します

5. [保存 (Save)] をクリックします。

監査ログからのイベントの削除

監査ログの古いイベントをクリアすることができます。これにより、イベントの検索が容易になります。削除時に古いイベントをCSV（カンマ区切り値）ファイルに保存することもできます。

開始する前に

Security Adminの権限を含むユーザプロファイルでログインする必要があります。そうしないと、アクセス管理機能は表示されません。

手順

1. メニューを選択します。Settings [Access Management]。
2. [監査ログ]タブを選択します。
3. 「* 削除」を選択します。

Delete Audit Logダイアログボックスが開きます。

4. 削除する古いイベントの数を選択または入力します。
5. 削除したイベントをCSVファイルにエクスポートする場合は、チェックボックスを選択したままにします（推奨）。次の手順で*削除*をクリックすると、ファイル名と場所の入力を求められます。イベントをCSVファイルに保存しない場合は、チェックボックスをクリックして選択を解除します。
6. [削除（Delete）]をクリックします。

確認のダイアログボックスが開きます。

7. フィールドにと入力し delete、*[削除]*をクリックします。

最も古いイベントが[Audit Log]ページから削除されます。

監査ログ用のsyslogサーバの設定

監査ログを外部syslogサーバにアーカイブする場合は、そのサーバとストレージアレイの間の通信を設定できます。接続が確立されると、監査ログはsyslogサーバに自動的に保存されます。

開始する前に

- Security Adminの権限を含むユーザプロファイルでログインする必要があります。そうしないと、アクセス管理機能は表示されません。
- syslogサーバのアドレス、プロトコル、およびポート番号を確認しておく必要があります。サーバアドレスには、完全修飾ドメイン名、IPv4アドレス、またはIPv6アドレスを使用できます。
- サーバでセキュアなプロトコル（TLSなど）を使用している場合は、ローカルシステムに認証局（CA）証明書がある必要があります。CA証明書はWebサイトの所有者を識別し、サーバとクライアントの間のセキュアな接続を確立します。

手順

1. メニューを選択します。Settings [Access Management]。
2. 監査ログタブで、*Configure Syslog Servers *を選択します。

Configure Syslog Serversダイアログボックスが開きます。

3. [追加]*をクリックします。

[Add Syslog Server]ダイアログボックスが開きます。

4. サーバーの情報を入力し、*追加*をクリックします。
 - サーバーアドレス--完全修飾ドメイン名、IPv4アドレス、またはIPv6アドレスを入力します。

- **Protocol**--ドロップダウンリストからプロトコル(TLS、UDP、TCPなど)を選択します。
- 証明書のアップロード（オプション） -- TLSプロトコルを選択して署名済みCA証明書をまだアップロードしていない場合は、[*参照]をクリックして証明書ファイルをアップロードします。監査ログは、信頼された証明書がないとsyslogサーバにアーカイブされません。



あとで証明書が無効になると、TLSハンドシェイクは失敗します。その結果、監査ログにエラーメッセージが記録され、syslogサーバにメッセージが送信されなくなります。この問題を解決するには、syslogサーバで証明書を修正してから、メニューの[設定]、[監査ログ]、[syslogサーバの設定]、[すべてテスト]の順に選択します。

- ポート-- syslogレシーバーのポート番号を入力します。[Add *]をクリックすると、[Configure Syslog Servers]ダイアログボックスが開き、設定したsyslogサーバがページに表示されます。

5. ストレージアレイとのサーバ接続をテストするには、「*すべてテスト」を選択します。

結果

設定が完了すると、以降すべての監査ログがsyslogサーバに送信されるようになります。以前のログは転送されません。アラートのsyslog設定の詳細については、を参照してください "[アラート用のsyslogサーバの設定](#)"。

NOTE: If multiple syslog servers are configured, all configured syslog servers will receive an audit log.

監査ログレコードのsyslogサーバ設定の編集

監査ログのアーカイブに使用するsyslogサーバの設定を変更できます。また、サーバ用の新しい認証局（CA）証明書をアップロードすることもできます。

開始する前に

- Security Adminの権限を含むユーザプロフィールでログインする必要があります。そうしないと、アクセス管理機能は表示されません。
- syslogサーバのアドレス、プロトコル、およびポート番号を確認しておく必要があります。サーバアドレスには、完全修飾ドメイン名、IPv4アドレス、またはIPv6アドレスを使用できます。
- 新しいCA証明書をアップロードする場合は、ローカルシステムに証明書がある必要があります。

手順

1. メニューを選択します。Settings [Access Management]。
2. 監査ログタブで、*Configure Syslog Servers *を選択します。

設定されているsyslogサーバがページに表示されます。

3. サーバ情報を編集するには、サーバ名の右側にある* Edit *（鉛筆）アイコンを選択し、次のフィールドで必要な変更を行います。
 - サーバアドレス--完全修飾ドメイン名、IPv4アドレス、またはIPv6アドレスを入力します。
 - **Protocol**--ドロップダウンリストからプロトコル(TLS、UDP、TCPなど)を選択します。

。ポート-- syslogレシーバーのポート番号を入力します。

4. (UDPまたはTCPから) プロトコルをセキュアTLSプロトコルに変更した場合は、[**Import Trusted Certificate**]をクリックしてCA証明書をアップロードします。
5. ストレージレイとの新しい接続をテストするには、「*すべてテスト」を選択します。

結果

設定が完了すると、以降すべての監査ログがsyslogサーバに送信されるようになります。以前のログは転送されません。

著作権に関する情報

Copyright © 2025 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S. このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を随時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5252.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータ ソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用权を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用权については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。